



愛川ふれあいの村 3月の風景

平成31年3月 自然のたより

冬枯れていた芝生に、スズメノカタビラやシロツメクサの葉が目立ち始めると、村のあちこちでスミレやタンポポの愛らしい花を見つけることができます。カワツザクラが咲きだすと一気に春らしくなり、間をおかずにシダレザクラやオオヤマザクラも開花しました。桜の樹の前は村を訪れた方々の撮影ポイントとなり、たくさんの笑顔が咲いていました。



シダレザクラ



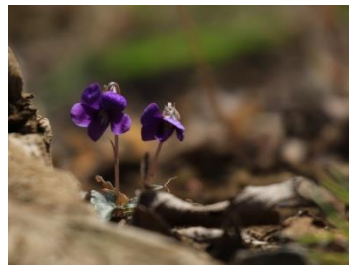
カタクリとキチョウ



ミツマタ



アオイスミレ



ヒメスミレ



ナガバノスミレサイシン



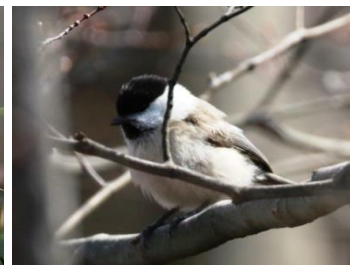
シロバナタンポポ



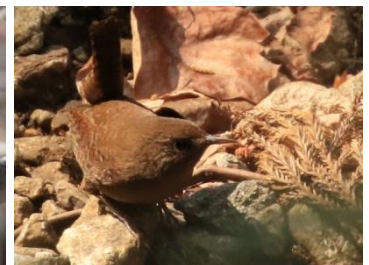
ヒガラ



シジュウカラの巣づくり



コガラ（準絶滅危惧）



ミソサザイ



カワツザクラとヤマガラ



オオヤマザクラ



チョウジザクラ



ソメイヨシノ

◆カントウタンポポ◆

～タンポポ戦争はあるのか～

日に日にあたたかさが増してきて、道端や野山に春の花が咲き始めた。先日、しらかば棟の前にカントウタンポポの黄色い花を見つけた。冬の寒さに耐え、やっと咲いた花は背丈が低く、それでも精一杯太陽に向かって健気に咲く姿に春の力を感じた。しかし、後日見てみると踏みにじられてその姿はなくなっていた。あちらこちらに咲く花は、みんなセイヨウタンポポばかりだった。数年前はカントウタンポポが多かったのにと、思いながら別の所を探して見ると、花をたくさんつけたカントウタンポポが見つかりほっとした。

セイヨウタンポポがカントウタンポポを駆逐するという『タンポポ戦争』という言葉聞いたことがある。セイヨウタンポポは開発された環境や道端、畑や土手などに適応し、一年中花が咲き、自家受粉で自分のクローンを作り繁殖能力が高い。カントウタンポポは在来種の多い里山や土手などに多く、春のみに咲き、虫媒花で同じ仲間の花がないと増えることができない。カントウタンポポとセイヨウタンポポが交雑したセイヨウの形質の強い雑種も多く見かけるようになったが、それぞれすみ分けているように見える。

しかし、一番の問題は開発行為ではないだろうか。最近の里山の土手などを見ると、去年までカントウタンポポが咲いていた場所が急にコンクリート化されてしまう。

見分け方は花の下の緑色の総苞片が写真のように立ち上がっているのがカントウタンポポで総苞片が反り返っているのがセイヨウタンポポ。皆さんの近くでもぜひ観察してほしい。(吉田)



★梅と桜★

村内に咲き誇る白やピンクの花たち。梅と桜、なんとなく雰囲気や花が咲く時期で見分けている方が多いのではないのでしょうか。実は3つのポイントを押さえるだけで簡単に見分けることができます。①花の形：梅の花びらは丸く、桜の花びらは先が割れています。②花の付き方：梅は枝から直接咲くように見え、桜は枝から伸びた花柄の先につきます。③幹：一概には言えませんが、梅はゴツゴツとして、桜は艶のある縞模様です。

見分け方を知っておくとこれからののお花見がさらに楽しくなりそうです。(佐々木)



▲つくし▲

春になると『つくし』が地面から顔を出します。諸説ありますが、土から筆が生えてきたような姿から『土筆(つくし)』と表記されます。

実は、つくしは食べられるんです。美味しく食べるためには袴をとり、あく抜きをしなければいけません。栄養豊富な食べものです。中でもビタミンCとEは相互作用により美肌効果が期待されます。肌の潤いを保つためにつくしを食べてみてはいかがでしょうか。(鷲山)



◎4月の注目ポイント◎

4月の愛川ふれあいの村は花盛りです。やはり、木全体が淡いピンクに覆われるサクラに目を奪われますが、ほかにいろいろな花が咲いています。ぜひ、サクラ以外の花にも注目してもらえたらと思います。

意外なところでは、イロハモミジもこの時期に花を咲かせます。とても小さいのですが、垂れ下がるように赤い花がたくさん咲き、見つけるのは難しくありません。モミジを見かけたら花が咲いていないか、チェックしてみてください。

モミジは春の花や秋の紅葉以外にも注目ポイントの多い植物です。花が終わるとブルーメランのような形の実ができるのですが、この実を風に乗せて遠くへ飛ばすことでモミジは子孫を残します。創作活動として提供している『くるくるくるタネ』は、この実の仕組みを模したもので、活

ミジのてり入れ動に取のの実の仕組みを模したもの。活



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬

編集：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼



愛川ふれあいの村で、検索★